



令和7年 10月 30日(木)  
静岡 大学 教育学部  
附属 静岡 小学校  
2年 学年だより 11月号

## 友だちと「学ぶ」って

後期に入り、早いもので一か月が経とうとしています。前期で経験したことを踏まえて「こんな係があったら、もっとクラスがよくなるよ」「自分たちでできるようになったから、この係はなくてもいいんじゃない」と係の仕事を見つめ直し精選しました。お手伝い係になった子は「配達するものが多いから手伝うよ」と自分から率先して仕事を見つれたり、体育係になった子は「時間通りに授業を始めたいから、何をしたらいい」と休み時間からコーンやミニハードルを準備したりと、積極的に係の仕事に取り組む姿がたくさん見られています。自分たちでクラスや学年の雰囲気をつくり、よりよいものにしていこうと頼もしいです。

1組の図工「ふわもち ペったん なにがうまれる？」の学習では、「泡」「インク」「紙」を組み合わせさせて生まれる表現を楽しみました。次々と生まれていく多様な色の泡や模様を目を輝かせて、自分の「お気に入り」を見つけていきました。友達と互いの表現を見合う中で、「海の中みたいで綺麗!」「これどうやってやったの?」「指先に水を付けてパラパラすると、透けるよ」などとおもいを交わしながら、「いい」や「綺麗」を増やしたり、自身の表現の幅を広げたりしていきました。

2組では、算数「かけ算」の学習の中で、ただ九九を暗記するのではなく、身の回りに目を向けて学校の中からかけ算で求めることができる場面を探そうと、友達と協力しながら学習を進めていきました。「算数ボックスの積み方が4の段になっていたんだ」「靴箱ってどの段になるんだ」と日常生活の場面を捉え直し、新しい視点からかけ算に対する見方を深めていきました。

3組の生活「モルモットと過ごそう」では、グループに分かれてモルモットのお世話について考えました。当初は「可愛いからたくさん触りたい」「初めてみたから私もお世話したい」と自分たちのおもいを優先していました。しかし、グループでの話し合いを通して「モルモットのことを考えたらあんまり触らない方がいいかも」「お世話する順番を決めていこう」とモルモットの気持ちを考えたお世話の方法を考えていきました。

共に学ぶ友達の存在が大きいと改めて感じました。友達と学ぶことで、自分の中にはなかった新たな価値観や考え方、表現の仕方と出会い、自分に取り入れたり、比較したりしながらお互いのよさを認めていくのだろうと感じます。一人ひとりが違うからこそ、時には思いや考えがぶつかることもあります。そんな時、相手と誠実に向き合い、思いや考えを伝え合う中で、大きな学びを得ていきます。友達とのかかわりを通して、日々成長しつづけていきます。

